君諱興之字稚陋琅琊臨
沂都鄉南仁里征西大將
軍行參軍贛令春秋廿一
咸康六年十月十八日卒
以七年七月廿六日葬于
丹楊建康之白石柏先考
散騎常侍尚書左僕射特

「落ち穂拾い記」⑦⓪
『王興之墓誌』永和四年(348)

（図①）香港・澳門展の目録表紙

（図②）西安展図録巻頭

（図③）王興之墓誌

（図④）抑揚が見られる文字

90年代の初め頃、山梨県の市川大門町の碑林公園の制作事業の手伝いで、西安の陝西省博物館（現在の碑林博物館）との仕事や交流が始まった。碑刻の複制事業が終了する頃に、館長の王仁波氏から、陝西省博物館であなたの所蔵の碑帖拓本展を開催してはと持ちかけられた。私が84年に香港と澳門で「歴代名拓展覧」を行ったことを、館長は知っていた（図①）。少し悩んだが、92年の夏に、陝西省博物館主催で「木鷄室所蔵歴代金石名拓展覧」として殷周の金文から漢魏六朝、隋唐宋の石刻拓本、それに日本、朝鮮の金石拓本等100件と陝西省博物館所蔵の名品・宋拓三件が展覧された（図②）。20日間の展示で、館の関係者によれば、約5万人の入場者があったと。私は、始めと終わりに出向いただけであったが、その短い間に、幾人かの面白い人物と知り合いになった。碑林の展覧を見た西安の大学に勤務されていたS氏は、人を通して私を自宅に招いてくれた。友人の通訳を通して話しをしている中に、一件の拓本をいただいた。広げて大変驚いた。『王興之墓誌』の整拓本であった。書道史の資料図版で知っていたが、原拓を見るのは、初めてであった。左端に小生宛に贈る題記と彼の署名が書かれていた（図③）。以前に博物館で働いていた方で、恐らく自ら手拓されたものであろう。学生時代に東京で開かれた「昭和蘭亭記念展」でも、この墓誌の原拓ではなく印刷品が展示されていた。解放後1965年に発見され、書聖・王羲之の従兄弟の墓誌であることから、墓誌の書風を根拠に、蘭亭序の真偽論争が展開され、大きな話題になった。その後も王羲之研究の重要な資料として注視されてきたが、中国や日本でこの墓誌の拓本を市場で見ることはなかった。しかし、2000年に入り、中国経済が発展し、オークションが開かれる様になって、稀に出品されているのを目にしたことがある。しかし、この墓誌の書風は、楷書体であるが、毛筆感が乏しく、右払い等に僅かに抑揚を見るだけである（図④）。

注・王興之墓誌の大きさは、縦28.5㎝　横37.4㎝、右頁の主図版はやや縮小

伊藤滋（書斎名・木鷄室）

書のひろば

理事長　下谷洋子

公益財団法人全日本書道連盟第194回理事会開催

本年6月に新体制となり初めての理事会が、9月11日上野精養軒にて開催されました。

議事

1.書写・書道教育推進協議会の活動報告

確認のための同協議会のこれまでの活動概要が報告された。

2.日本書道ユネスコ登録推進協議会の活動報告

近年は登録推進活動を「日本書道文化協会」が中心となって実施しているため、令和5年時までの概要の報告。

3.令和7年度書写書道教育講演会の報告

・6月5日総会終了後開催した。

演題「学校教育における書写指導の役割―これからの教育現場に求められるもの―」

講師　世田谷区教育委員会事務局事業推進担当課長　柄澤武志先生他2名（聴講者118名）

講演録を11月頃発行予定の連盟会報に掲載する。

4.令和7年度夏期書道大学講座の報告

・8月1日～3日豊島区東池袋のサンシャインシティ・コンファレンスルームにて開催した。

8月1日

〈篆書〉角田大壌先生

〈行書・草書〉大田鵬雨先生

8月2日

〈楷書〉井上清雅先生

〈かな〉原奈緒美先生

8月3日

〈隷書〉山中翠谷先生

〈漢字かな交じり書〉赤澤寧生先生

来年度は、8月7日～9日の予定

5.役員構成機関（理事の役割分担）について

6.令和7年度書道講演会について

日時　令和7年11月10日(月)

14時～15時半

会場　国立新美術館　講堂

講師　台東区立書道博物館　館長

全日本書道連盟　外部監事

鍋島稲子先生

演題「夢のあとさき―明末清初における伝統の継承と再編」

○申込みなど詳細は47ページ参照

7.令和7年度助け合い募金について

（11月～12月）

維持団体・賛助団体に対して協力を依頼する。

8.助成申請について

3件の助成申請

①第50回全高等学校教育日本委員会和歌山大会

②千葉県高等学校教育研究会書道部会研究協議会

③全日本書写書道教育研究会第65回全国大会(千葉)

9.その他

・中国書法家協会と代表団交流の再開について

・評議員の推薦について

・新入会会員について

「書道芸術」秋の昇級昇段試験終了

本誌秋の昇段級試験が9月25・26日と行われました。今期は若干出品者は減少しました。

秋の三種は漢字・かな条幅・ペン字でしたが、師範への昇格がなかなか出来ない方には個別に注意点をお知らせしていますので、参考にされて下さい。どの部門も、平均的な実力を求めるのが競書雑誌ですので、その時だけでなく普段から自分の苦手は何なのかを知って努力するしか方法はありません。

来月号に結果報告が掲載されますから参考にして下さい。

佐久全国臨書展審査終了

近代学書の確立者・比田井天来の故郷で始まった佐久全国臨書展ですが、第14回の審査が9月25・26日と行われました。全国から小・中・高・一般と3000点余の臨書作品が寄せられ、会派を超えた審査員による時間をかけた公平な審査としても有名です。

普段臨書は行っていても、作品として発表する場はなかなかありません。どなたでも出品できますから、是非この臨書展に関心を持って学びの一つに加えて下さい。

第14回比田井天来・小琴顕彰佐久全国臨書展

会期　11月22日～12月14日

会場　佐久市立近代美術館

佐久臨書展漢字審査風景

漢字書基礎基本講座(17)

種谷萬城

張遷碑拓本剪装本
冒頭部分

張遷碑篆額『漢故穀城長蕩陰令張君表頌』

張遷碑 臨書『君諱遷字公方』

張遷碑 倣書『方勁雄偉』

張遷碑 基本点画

隷書2　張遷碑

山東省泰安市岱廟に現存する『張遷碑』は、穀城長であった張遷が栄転した後に、穀城の吏民が、その善政を表頌するために建てた「去思碑」で、漢・中平3年（186）の立碑。書体は波磔を持つ隷書・八分。前年に建てられた『曹全碑』は毛筆で書かれた線の柔軟さを、そのまま再現しようと刻した優雅な趣きだが、『張遷碑』はこれと全く異なった発想で刻された。点画はごつごつとして、角張って、素朴で、どことなくぎこちなさがある。横画は水平、縦画は垂直。縦画と横画は直角に交差。波磔はあまり長く引かず、強調していない。波磔のない横画や縦画には抑揚がなく、太細を付けずに刻し、がっちりとした方形な構成で、逞しい風貌をしている。『張遷碑』は石に刻した文字でしか表せない魅力を追求した書法と刻法で生まれた「方勁雄偉」な隷書。清末の伊秉綬（いへいじゅ）、何紹基（かしょうき）や明治の日下部鳴鶴が『張遷碑』を学び独特の隷書作品を残した。また、『張遷碑』の碑額は装飾性に富んだ独特の篆書。これも凄く魅力的。

※ユーチューブ『筆のサロン』に臨書と倣書の関連動画を配信しました。是非参考にして下さい。QRコードでアクセスできます。

筆のサロン
QRコード

――基礎基本講座――

篆刻・刻字基礎基本講座(17)

後藤大峰

前回は彩色について、お話を進めました。

刻字作品を創るのに彩色を施す、これは作品を創る上で大事な要素の一つです。

その中で大きなアイテムの一つが「金箔」「銀箔」等の箔類です。

今回はこれについてお話を進めて行きたいと思います。

金箔とは、金を微量の銀や銅とともに金槌などで叩いて極めて薄く延ばした箔のことです。主な種類として、本金箔、純金箔、洋金箔などがあります。

主産地は90パーセント以上、伝統的に「石川県の金沢市」です。

刻字作品では、陽刻作品の文字部分にその箔類を用います。それにより作品は高雅感が横溢し、非常に品位の高い作品となる効果があります。

その工程は、まず、文字部分を紙やすり等にて整えてから「本漆」や「人工漆」を塗布し箔を貼り込みます。

我々はなかなか、高価な「本漆」は扱えないので、安価な「人工漆」にて、その工程を完遂致しております。

今、金相場が高騰し金箔そのものが高価で金箔を使用するのが厳しい状況にありますが、金箔などにての作品の仕上げは他のものとは代えがたい作品効果があります。

是非、箔類を用いてワンランク上の作品を創作していただきたいと願って居ります。

今回は「金箔」などについてお話を致しました。

書道芸術院
令和の群像（2025）

菊池昌春（大阪）

「師、曰く」

「2025大阪・関西万博」が、大阪夢洲で4月に開幕しました。地元大阪に住む私はさて、何度足を運べるだろうかと、開幕前からわくわくしていましたが、毎日新聞社から万博に出品する機会を与えていただき、一生に一度のこと！と、何の迷いもなく出品することを決めました。

二十（はたち）歳で恩地春洋先生の下で書を始めて40余年。恩地先生亡き後も、よく続けてこられたと思っています。先生にかけていただいた最後の言葉は「菊池昌春会心の作ではないなあ…。」でした。書く時間がうまく作れず、締切前日に何とか書いて見ていただき、消化不良のまま出品することが続いていました。それでも、これではいけないと一念発起せざるを得なかったのが、「書道芸術院の書・漢字」展への出品でした。大きな壁面をカバーするために、何種類もの作品は書けないと思い、1点を大きな紙に仕上げることにして、恩地先生から「いざという時に書きなさい。」と言っていただいた詩を選びました。紙を貼る。乾かす。書く。自宅に居る時間のほとんどをこの作品のために使いました。一度ではなく、何度か小林琴水先生に見ていただくことができて出品した書展では、名だたる先生方から批評していただく機会に恵まれ、とても光栄で晴れがましい思いをしました。会場で、作品を前に「恩地先生の匂いがするね。」と声をかけていただいたことは、何よりも嬉しく、また、誇らしいことでした。

以前「書道芸術」書話シリーズに、「いつか、人生の節目に、それにふさわしい作品を書きたい。」と書きました。この書展が人生の節目だったのか、それとも、まだまだこれから何度も訪れるものなのかはわかりませんが、与えられた場所で、訪れた機会に、精一杯努力しなければと思っています。人の心に寄り添い、何より、自分の心に寄り添い、書に携わっていきたい。

恩地先生に言っていただくことが叶わなかった、「好きなように書け。」と、「会心の作。」にいつか出合いたい。

万博会場の自分の作品「心」を前に、初心を振り返るとともに、この言葉を強く心に刻みました。よき師、よき先輩、よき仲間にめぐり逢えたことに感謝しながら、支えてくれている家族のもとへ、会場を後にしました。

2018年「書道芸術院の書・漢字」展「長相思」　菊池昌春 書

書道芸術院
令和の群像（2025）

新行内芳蘭（千葉）

感動を書に

私と書との出会いは、小学3年の時、当時、教頭先生でいらっしゃった古橋飛山先生による、お習字のけいこです。筆の持ち方から書の基本を教えて下さり、全国学生展、白扇展と、展覧会にも出品をさせてくださいました。たくさん褒めてくれたことにより、書くことが楽しくなり、興味を持つようになりました。いつの頃からか、大人になって、書をやりたい、やるんだと思い続けておりました。

結婚後、地元にて、市の生涯学習の書道教室に参加。その時、加瀬澄春先生と出会うことができ、熱心なご指導のもと現在に致っております。先生はいつも、良い作品をたくさん見ること、そして、いろいろ挑戦してみなさいと広い心で導いてくれます。

昨年より、書道芸術の月例競書は、審査会員も競書出品できるようになりました。初心にもどって、数点トライしております。提出するために、作品を煮つめていく作業は、時間を忘れての、楽しいひと時です。漢字作品とともに、現代詩・前衛と、結果はさておき、出品し続けていこうと思います。かな条幅も、かなの美しさ強さを、もっと知りたいという思いと、漢字作品にも、良い影響を得ることができるような気がしますので、新たに一からのスタートです。

展覧会作品は、楽しいというわけにはいきませんが、創作中に悩んだ時には、臨書に立ちもどってと、自分に言いきかせます。自然な流れ、時としてリズムが溢れるような作品を書いてみたいと思いますが、まだまだ臨書が足りないと痛感します。体に入れないものは、体から出ていかないと言われます。草稿は勿論のこと、臨書、創作、そして書きこむことを大切にしていきたいです。先生の適切なアドバイスをいただきながら。

私は、美術館に行くのが好きです。そこには、新鮮な気づきと感動があります。とても気に入っている美術館の中に、皇居三の丸尚蔵館があります。残念ながら、今年5月より休館で、令和8年秋より開館予定です。最後の企画展では、絵画、工芸の中に、中林梧竹、貫名菘翁の作品、そして紀貫之の古筆にも出会えました。それから音楽も好きです。先日は、待望の久石譲さんによる「スタジオジブリフィルムコンサート」を東京ドームにて聞き、そして見ることができました。やさしさと強さが共存する「本物のすごさ」を目*のあたりにして、感動の涙も。絵も、音楽も、書に結びつくものがあると思います。そして、そこからの感動を少しでも落としこめた作品を、書いていけたらと思います。

これからも、加瀬澄春先生のもと、白扇会の練成会にも積極的に参加をし、辻元大雲先生、種谷萬城先生、諸先生方のご指導をいただきながら、仲間とともに一歩ずつ前進していきたいと思います。

第78回書道芸術院展「繞郭煙嵐新雨後」

新行内芳蘭書

書道芸術院
令和の群像（2025）

白地清柳（宮城）

「私の人生・喜びも悲しみも」

7月に89歳になり、思えば実に長い書の道を歩んで来たもの。そのルーツを辿れば国民学校1年生の書き初めで「日の出」と書いた時、白と黒と鮮やかな朱の渦巻。このコントラストが小さい私に鮮烈な印象を与えた。また、中学2年の時、書の堪能な先生に巡り合い、初めてさばきの筆で書くことがうれしくて、雪の上にも、湯気で曇った風呂場のガラス窓にも夢中で書きまくったことなど思い出す。

大学では副専攻として高校書道教諭の免許を取得し、書道研究会にも入り臨書と書道の歴史と拓本採り等を勉強した。夏休みの合宿で「九成宮醴泉銘」や「孝経」等の法帖全臨、そして先輩のクラスで書写の授業も聴講させてもらった。卒業試験は模造紙半分を14枚使って「書体の変遷」と題した掛軸作りと展覧会用作品の創作であった。4年間藤本竹亭先生に楽しく教えを頂いた。

教職3年目、宮城野書人会（以下・書人会）の矢内香苑社に入り、芸術化された書に接し、書の奥深さを感じ新たな情熱を高め、競書と書道芸術院展（以下・院展）と河北展の現代詩文書部への出品を始めた。

私の書を好んでくれた母の死・結婚・出産・子供の心臓手術のための退職・子供の輸血のことで近所の方々にお世話になり、返礼として書道愛好会と英語塾をつくり、子ども達に教えることになった。

子供の快復後、加藤翠柳先生に師事し、書人会の夏の講習会は毎年欠かさず、院の熱海や上山の講習会にも出席し、大勢の先生方に教えを頂いた。毎月の競書の他に3つの展覧会には現代詩文を必ず出品した。多くの方々に観ていただけることがうれしくて、ある時は、夫の勤務地トルコから作品を友達に郵送し、院展に出品してもらったこともあった。

長い付き合いの書友との練習では、書について、うれしさ、苦しさを本音で語り合い、その日のために生活のリズムをつくるようにさえなっていた。

作品制作には、まず心に響いた文を選び、大澤雅休先生の説かれる心・技・体の調和を考え、また翠柳先生の金言「腕で書くのでなく動勢が働くよう腰で書け」等を念頭に置き、文意をよく咀嚼し、構成・潤渇・余白美・線質・字形をよく考えて書き出す。雑音は一切耳に入らず無心の境地で詩文に酔いながら書けたら最高に幸せと思う。出来映えが「よし」にならずとも2・3枚書けたら終わりとする。芸術性のある作品にはまだ程遠いけれど、指導頂いている尾形澄神先生の激励と第41回の院賞と第65回の毎日賞を戴いた時のうれしさを思い出し、今なお、心に響く文に出逢うと筆を持ちたくなる。こんな幸せな自分であることを思う時、これまでお世話になった多くの先生方、多くの書友、家族に万感の感謝の念でいっぱいになる。

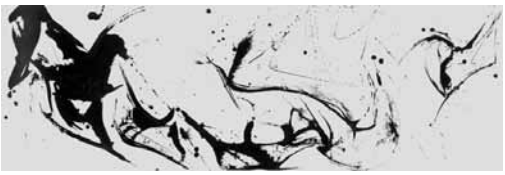
昭和の終り頃、2年間高校生に書道を教えるために勤めた。若々しい多くの学生達との授業は面白く、私自身も大変いい勉強になった。小中学生の書写の授業と高校生の書道と、若い世代といっしょに学べたことも幸せなことであった。

第65回毎日書道展「春の風」　白地清柳書

新　鋭　礼　讃

前衛書部
審査会員
栗原りか
（群馬県）

所属　白玄会
師名　倉林紅瑤
参加している書展
毎日書道展
群馬県展



「麗」

作品自評

「麗」をテーマに、明るさ、爽やかさ、潤渇の変化をイメージして仕上げました。余白の美しさを意識して造形を再構築し、同時に文字の意味としての麗しさ、豊かさを最大限に表現したいと考えて取り組みました。柔毛の長鋒を使用して墨の濃淡、潤渇感の対比などを追求する作品制作はけっして容易ではありませんでしたが、楽しさを感じていたことも事実です。しかし、前衛書の力強さや美しさを表現するためには課題が山ほどあると感じています。

書活動における課題

病院薬剤師として宿直勤務もこなしつつの書活動には時間的な制約がありますが、休日に書道展に足を運んで刺激を受け、自分の作品を振り返り、次の作品に活かせるよう努力しています。時折、谷川岳や尾瀬を散策しますが、自然の中で無心になると、タフな毎日の疲れをリセットできるし、空模様からは前衛作品のイメージが湧くこともあります。

今、伝えたいこと

小さい頃からじょうずな文字を書きたいと思い、書を習っていました。しかし、渋川女子高校書道部で倉林紅瑤先生に出会い、前衛書道の世界に導いていただいてからは書の表現の可能性が無限に広がり、難しさも楽しさも深まりました。そしてそのすべてを共有することのできる仲間の存在はかけがえのない宝物になりました。それは今でも私の書活動のエネルギーになっています。

現代詩文書部
審査会員候補
西岡艸真
（岡山県）

所属　白扇会岡山
師名　小竹石雲
参加している書展
毎日書道展

しんしんと肺碧きまで海の旅
篠原鳳作の句

「海の旅」

作品自評

作者の篠原鳳作は鹿児島生まれ。南国の海の碧さが、息を吸うと体のすみずみまで行き渡り、まるで海と一体化してしまうような感じがします。鮮やかな色彩表現が素敵だったので、この句を選びました。

生き生きとした作品を書こうと思い制作しました。広々とした碧い海を想像しながら、その広さが表現できるように、余白に気をつけ書きました。また墨の潤渇、線の太細で変化をつけ動きのある書になるように心掛けました。

書活動における課題

作品を制作していると、単調で面白みのないいつもの自分が出てきて、毎回同じようなものができあがってしまいます。もっと古典を研究し、線質の多様さやリズム感などを学び、様々な表現ができるようになれたらと思います。

今、伝えたいこと

日々のことに追われて時間がないときもありますが、書を書きたい気持ちは忙しい時ほど湧いてきます。書が好きで楽しいから続けてくることができたのだと思います。作品制作が上手くいかず苦しいときがあっても、楽しんで書く気持ちを忘れずにいたいと思います。

「新鋭礼讃」は不定期の掲載になります。本院・無監査以上の方で掲載を希望する方は、ぜひ院事務所まで連絡してください。

令和7年度第59回書道芸術院
単位認定講習会（千葉）報告

会場＝ホテルポートプラザちば
期日＝令和7年8月23日（土）～8月24日（日）
主管＝南関東総局（総局長　種谷萬城）

単位認定講習会

令和7年度第59回単位認定講習会が8月の23日（土）24日（日）の2日間の日程で千葉市のホテルポートプラザちばで参加者123名を迎えて開催された。

前日の22日（金）には、実行委員が集合して会場準備、講師との打合せ、食事会が開催され、午後8時からは会場の最終調整が行われた。

講習会初日は、実行委員全員が朝8時に集合して受付準備をして受講者を迎えた。

開講式に続き、1日目の講習に入った。

講習会概要

第1日

書道芸術院の書　下谷洋子先生

本院の設立から現在の主な事業について提示。続いて歴代の会長・理事長の作品を解説され、現在の代表役員の第76回毎日書道展の出品作について思いなどを伺った。

開校式

原拓書道史　種谷萬城先生

歴史的流れに沿って代表的拓本を展示し、講師による解説を聞きながら、原拓の臨場感を味わいつつ鑑賞した。原拓を初めて観る方も多く時間を忘れて見入っていた。

原拓書道史

篆刻・刻字　後藤大峰先生

既に字入れしていただいている印「長久」を陰刻した。慣れない人は、刻する深さがなかなか出ないようだったが、最後に講師後藤先生と石心会の船木先生に補刀していただき見違えるような作品が完成した。

現代詩文書　小竹石雲先生

たくましさ、豪放さを求めての作品創りが課題。争座位文稿や造像記のイメージで詩文を書くわけだが、臨書しても、なかなか作品につながらず、特にかなをどうするか、苦慮したようだった。

一般教養

千葉市動物公園鏑木一誠園長

動物園の歴史から始まり、動物園を科学するという新しいプロジェクトを立ち上げて動物園の可能性を探るとい

現代詩文書

篆刻・刻字

う興味深い話をお聞きした。

1日目の講習が終わり受講生全員参加のもと祝賀懇親会が開催され、ビンゴゲームで盛り上がった。講師の作品を始め、書道用品、成田山書道美術館からの図録の提供もあり、景品が全員に渡され楽しい懇親会となった。

2日目の講習会も朝8時から準備し漢字の講習から始まった。

懇親会

第2日

漢字　名越蒼竹先生

行草書における変化と調和と題し、明末清初の書家、王鐸を教材にして、行草書の臨書か創作を書くという内容は、受講生にとってはかなりハードルが高かったかと思われる。王鐸は、王羲之の書風を土台にして自らの書風を創り上げた書家であり、これを機会に関心を持っていただきたい。

漢字

前衛書

前衛書　千葉蒼玄先生

前衛とは何かから始まり、本院の前衛作家の作品解説、文字を基に前衛作品を創るプロセスなどを説明された。その上で、講師が用意した各自の名前の篆書を発展させた前衛作品を書き上げた。作品は書道芸術院事務所に提出してもらうこととした。

かな　下谷洋子先生

かなの基礎と古筆の見方と題し、基礎的知識と古筆の見方を中心に、かなの形・連綿・線の概要を話された。書く時間は短かったが、かなの理論の基本を学んでいただくことができた。

かな

閉講式では、単位認定証の授与、理事長の全体の講評があり、謝辞に続いて講習会の引継ぎが大内事務局長の先導により、南関東総局(種谷先生)から山陰支局(名越先生)に行われ、2日間の講習が無事終了し、閉会となった。

〈報告者　山口 仙草〉

閉講式で認定証の授与

引継ぎ会

古典鑑賞 ㊹⑤

李嶠詩断簡（伝 嵯峨天皇筆）①

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

漢字研究部臨書課題 ＝（半紙普通判・縦使用）左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 ＝（A.大作の部―毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可 B.小品の部―半切1/3以上半切以内・全紙1/3以内も可（A・B縦横自由））当該古典の左記掲載部分以外も可。

〈解説〉この書は古来、三筆のひとりである嵯峨天皇の真筆とされてきたが、天皇自筆の『光定戒牒』とは書風が異なっているため、現在では真筆説は否定されている。しかし、同時代の9世紀前半の書写であることは、料紙（縦簾紙）の使用からも疑いようがない。

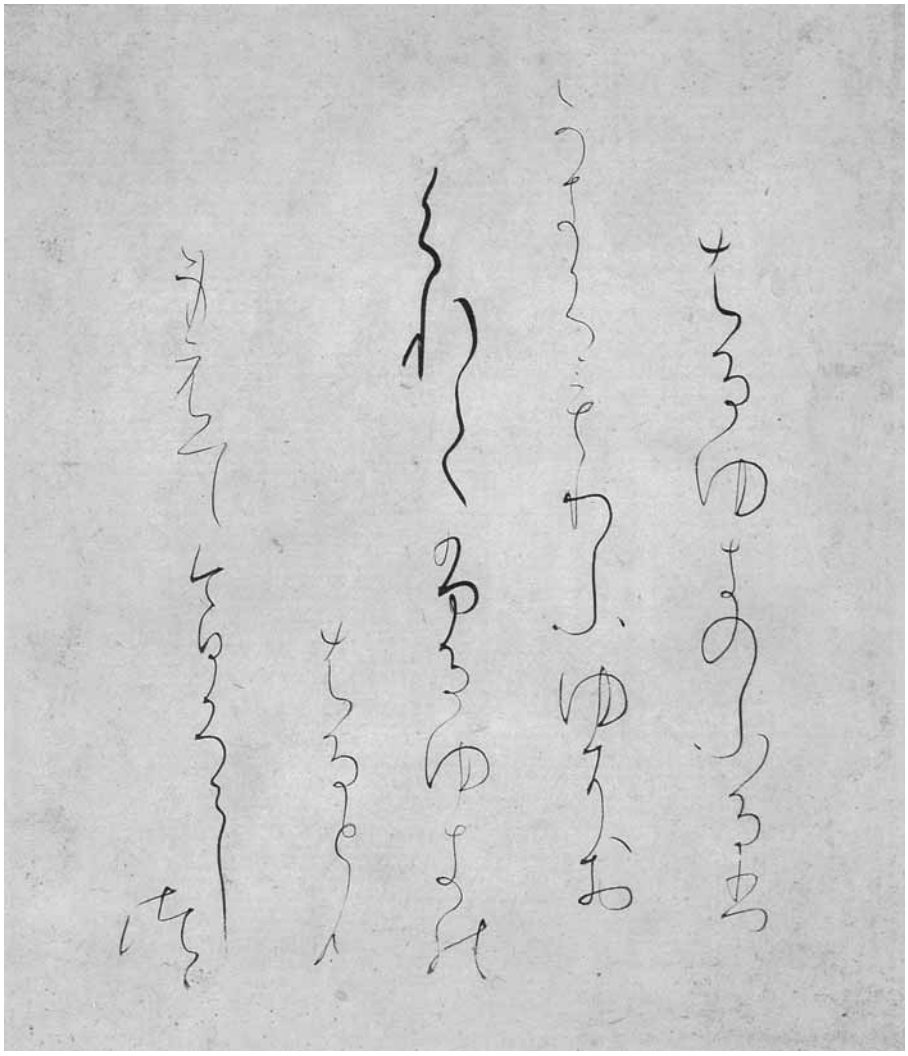
内容は、唐の詩人・李嶠の五言律詩120首を草書と行書で書いたもので、現存するのはそのうちの21首である（ただし、最後の1首は別に手鑑に貼られている）。

今月の課題は3首目の「星」をテーマにした1首の3行分である。破損により作の字が消えているが、字書を活用して各自で復元を試みていただきたい。王羲之の蘭亭序の字形もヒントになるだろう。（編集部）

蜀郡霊槎転、豊城宝気新／将軍臨北塞、天子出西秦。未／作三台輔、寧為五老臣。今霄

※掲載図版95%縮小
（原寸にするには105%拡大して下さい）

㉕⑨ 升色紙（伝 藤原行成筆）①



※古筆は原寸（以上も可）で臨書しましょう。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

湯木美術館蔵　　※掲載図版原寸

〈よみ〉

はるゆきのふるひ（者支悲）
かきくもりふゆにお（可支久毛利耳）
くれてふるゆきの（久ヨ布支能）
はるとも（者无）
みえで今日くらし（身久）
つゝ（徒）

〈解説〉今月から「三色紙」のひとつに数えられる『升色紙』を学習する。清少納言の曽祖父、清原深養父の家集を正方形に近い（升形）の料紙に書いたもの。もとは糸で綴じた綴葉装の冊子本であるが、1枚ずつ分割されて、39枚が現存する。行成ではなく、少し時代の下った11世紀後半の書。歌の最初に合点や集付が書かれたものも多いが、これらは藤原定家の加筆とされる。もとの冊子本を一時期、彼が所持していたことが分かる。

『升色紙』の書写形式で特筆すべきは、詞書が和歌本文とほぼ同じ大きさで書かれていることである。よく確認しないと詞書と和歌の区別がつかないことも多い。今月の課題がまさにその例で、6行の散らし書きに見えるが、実際は1行目は詞書である。臨書の際は留意しておきたい。

（編集部）

かな研究部臨書課題	（半紙普通判（**料紙可**）・**縦長**に使用）別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より**歌一首以上を書く。（全臨も可）**
特別研究部臨書課題	A．大作の部＝毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可 B．小品の部＝半切⅓以上、半切以内（縦横自由）、全紙½以内も可 ＜いずれも上記の掲載以外も可。＞

漢字規定 初段以上【11月15日締めきり】用紙 半紙普通判

後藤大峰選書

秋夜一燈涼　よみ（秋夜一灯涼し）

書体＝自由

習い方解説 (1)

後藤大峰

秋夜一燈涼　（傅山）

（秋夜一灯涼し）

秋の夜長、灯火がやさしくゆれている。

文字は漢隷を基に細かい筆法に注意し書き上げました。

隷書は分間に注意しつつ、独特の波磔を正確に書くこと。また、その波磔に入る時の横画の書き方にも留意したい。

筆は兼毫筆を使用しました。

漢字規定 秀級以下【11月15日締めきり】用紙 半紙普通判

大平邑峰選書

月白風清　よみ（月白く風清し）

書体＝楷書

習い方解説 (1)

大平邑峰

月白風清　（蘇軾）
（月白く風清し）

月明りの美しい秋の静かな夜の風情。

「月白」は白く美しく輝く月。

「風清」は涼しくさっぱりとした秋の風。

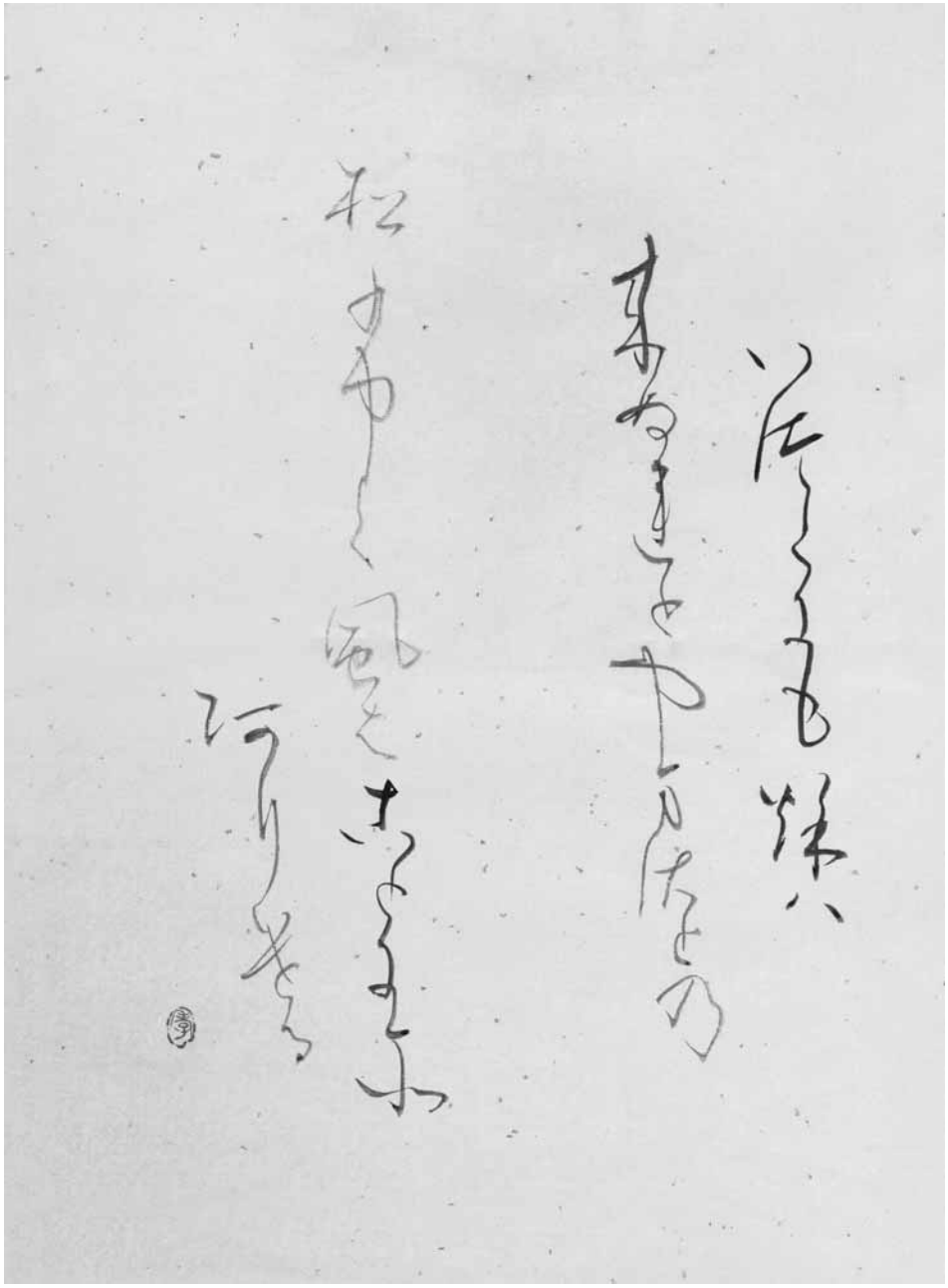
初歩の方の学習は、楷書から始める場合が多いと思います。しかしながらやってみると意外と難しいのではないでしょうか。均整美が楷書の特徴なので、筆遣いのままならない段階ではなかなか結果の出ない書体だと思います。

ひとくちに楷書と言っても書法的にいろいろな書き方があり、筆運びや力加減などちょっとした違いにより風趣の異なる文字になります。書くにあたってはこのような雰囲気の字を書きたいと目標を立てて、そのためにはどのようなことに留意すればよいかをよく考えながら学習を進めたいものです。

今月は、言葉の意味から清新さに相応しい背勢によるやや引き締まった書き方を目標にしてみました。筆は鼬毛の中鋒を使用。

かな規定 初段以上【11月15日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

小島孝予選書



よみ方 いづ(徒)く(久)に(尓)も秋は(八)来ぬれ(連)ど山里(や万佐と)の(乃)
松吹(布)く(久)風は(者)こ(古)とに(尓)ぞ(所)あ(阿)りけ(遣)る

創作

＊料紙は半紙版(33.0×24.5㎝)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切って下さい。

習い方解説 (1)

小島孝予

いづくにも秋は来ぬれど山里の
松吹く風はことにぞありける
（藤原公任「玉葉集」）

どこにも同じように秋は来たのだけれど、この山里の松に吹く風はさらに寂しさを感じるなあ。

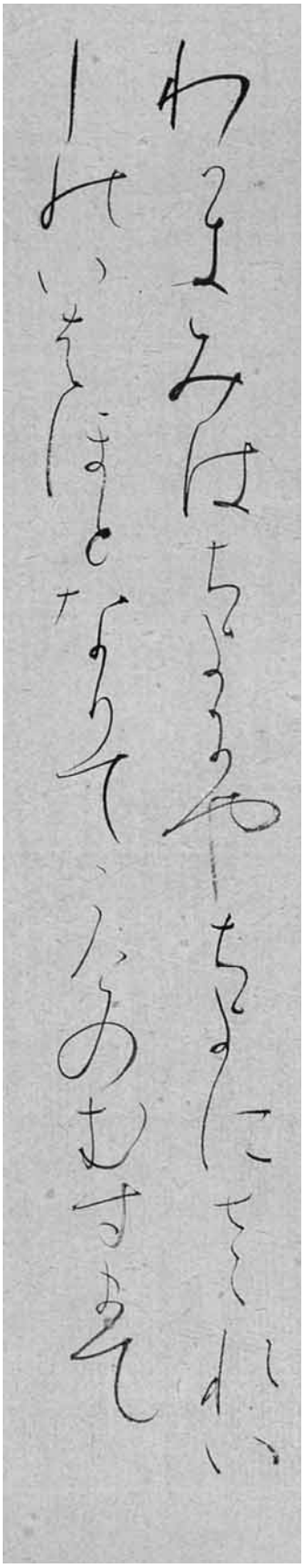
基本的な「4行の散らし書き」です。2行目と3行目の行間を広く取り、ふたつの集団になっていますが、隣り合う行の響き合いを考慮しました。横に張り出す文字の隣には縦長の文字を配置して、ぶつからないようにしました。また文字の頭が隣り合う行の文字とそろわないように、字の大小を工夫します。

そのようにして行のデフォルメが生まれ、連綿線によって流れができ流麗な作品に仕上がります。

墨継ぎは「古」です。

かな規定　秀級以下【11月15日締めきり】用紙　半紙タテ$\frac{1}{2}$（料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。　粘葉本和漢朗詠集（掲載写真拡大120％）



よみ方　わがきみはちよにやちよにさゞれいしのいはほとなりてこけのむすまで

歌意　私のご主人様の寿命はいつまでも限りなく…。小石が成長してやがて巨岩となり、そこに苔が生えそろう時までも続きますように。

かな条幅規定【11月15日締めきり】用紙　小画仙紙半切（料紙可）

佐藤希雲選書

よみ方　忍(しの)ぶ(不)れど恋しき(支)時は(盤)あしひ(日)き(支)の山より(利)月の(能)出でて(ゝ)こそ(所)来(久)れ

創作

※タテ形式に限る

習い方解説 (1)

佐藤希雲

忍ぶれど恋しき時はあしひきの山より月の出でてこそ来れ

（紀貫之「古今集」）

恋心を抑えかね、山の端に月が出るように、あなたに会いに家を出ましたが…という歌です。

細身の線で縦に流し、3行目を離してみました。「し」が3か所に出てきますので、多少変化させます。もちろん変体がなを使う手もあります。墨継ぎは「出」ですが、他の箇所でも可能かと思います。

漢字条幅規定　初段以上【11月15日締めきり】　用紙　小画仙紙半切

名越蒼竹選書

南登杜陵上　北望五陵間　秋水明落日　流光滅遠山　（李白）

（南のかた杜陵の上に登り　北のかた五陵の間を望む　秋水落日明らかに　流光遠山滅す）

書体＝自由

漢字条幅規定　秀級以下【11月15日締めきり】　用紙　小画仙紙半切

種谷萬城選書

千帆美満風　（杜牧）

（千帆満風（せんぱんまんぷう）に美（うつく）し）

書体＝自由

習い方解説 (4)

名越蒼竹

今回は楷書作品について考えます。楷書にも不安定な字形のものがありますが、唐代を中心とした整斉な字形の作品では作品全体も整斉にする必要があります。行草作品と違う点は一つ一つの字座の広さを考慮しながらも字間と行間を揃えることです。ただ揃えるといっても物理的に同じにすることではなく、見た目の感じです。

※タテ形式に限る

習い方解説 (4)

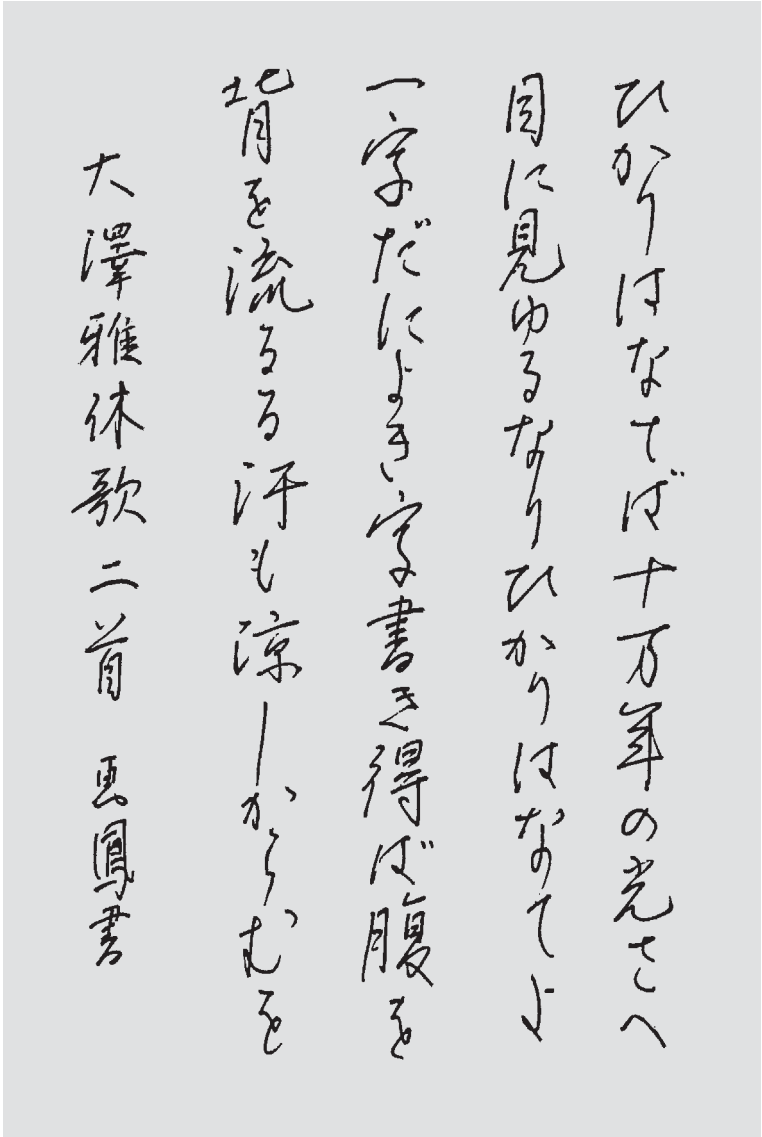
種谷萬城

「たくさんの船はみな帆に風をはらんで美しい」の意。続く下の句は『曉日殷鮮血』（のぼる朝日は鮮血のように赤く燃えている）。唐・杜牧「池州送孟遲先輩」中の句です。今月は、宋・米芾の行書を学び、躍動感と爽やかな趣きを求めました。

本誌連載の『漢字書基礎基本講座(12)』に米芾の蜀素帖を紹介しました。関連動画も参考にご覧下さい。

ペン字規定【11月15日締めきり】

飯沼恵鳳選書



◇用紙　ハガキ大（14.8×10㎝）の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用（ボールペン・フェルトペン可）

書体＝自由

ご注意!!

用紙の大きさにばらつきが見られます。
用紙サイズ（ハガキ大14.8×10㎝）を守って下さい。

習い方解説 (1)

飯沼恵鳳

今月は、大澤雅休先生の歌集「平原」より2首選定し題材としました。

大澤雅休先生は、昭和22年に「日本書道美術院」を脱退、「書道芸術院」を結成、創立発起人の一人として、書道芸術院展の審査員を始めとし、初期の芸術院時代に貢献なされました。

また、先生は「アララギ派」の会員で歌人でもあります。

今回は、その歌集「平原」より2首選定、先生の真義としての書業、真実を書くという本義を純真に、純粋に書かれた人間性豊かな書であり歌と思い取り上げました。

参考手本に捉われず個性豊かに、秘された懐（おもい）を抱きながらペンを走らせましょう。

ひかりはなてば十万年の光さへ
目に見ゆるなりひかりはなてよ
一字だによき字書き得ば腹を
背を流るる汗も涼しからむを
大澤雅休歌　二首　○○書

実用書【11月15日締めきり】

前文ご免下さいませ
ご母堂様には先日来ご入院中と
伺いましたが如何でございますか
ご高齢のこと故心配しております
近々お見舞いに伺いたくあらためて
お電話いたします

佐藤莱扇

佐藤莱扇書

前文ご免下さいませ／ご母堂様には先日来ご入院中と／伺いましたが如何でございますか／ご高齢のこと故心配しております／近々お見舞いに伺いたくあらためて／お電話いたします

書体＝自由

（掲載手本85％に縮小）

◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用　署名は各自の氏名（号）を
◇用紙は普通版半紙横½（24.5×16.5㎝）　B５版コピー用紙（26.0×18.1㎝）も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る

今月のホープ作品・各部総評　NO.772

かな部　師範　松島　翠舟

行の位置を変えただけですが、大胆な声が右の余白に働きかけ、伸びやかで明るく生まれ変わりました。

◎かな部総評　概ねよく出来ていました。紙面に対して小さかったり細すぎたりは残念でした。みづ、こゑ、かな遣いに注意。（洋子評）

漢字条幅部　師範　新村　翠芳

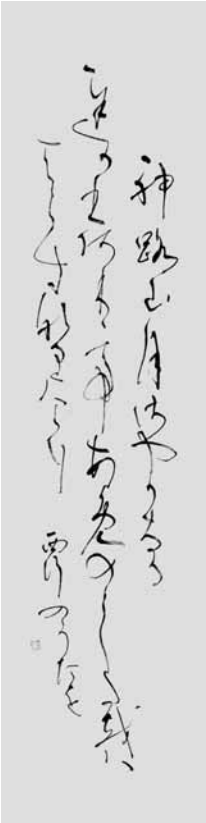
筆先を沈潜させた筆線が適度な緊張感をうみ、併せて字形の安定感と相俟った隷書作品に仕上がる。

◎漢字条幅部総評　総体的に筆線の強さが感じられた。筆線の多彩さも見られ楽しく拝見できた。ただ少々粗雑な作も散見。（石雲評）

かな条幅部　準師範　小峰美加子

弾力ある線質で軽快に書き上げた。3行の散らし書きで余白を上手く使い、立体感が生きている。

◎かな条幅部総評　行頭の神が大きすぎた作品が多々あり残念。書き出しの漢字は控え目にすることで全体の調和がとれます。（孝予評）



漢字部　師範　小川　白柳

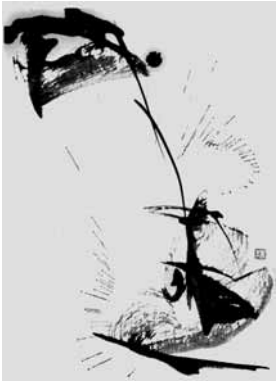
切れ味のよい線が美しい。鍛錬された筆法が生む線で変化多彩。爽快感溢れる見応えのある作品。

◎漢字部総評　上級は行草作品が多見。線質の良否に質の差が見られた。草書体字形の不明確な作もあった。字形を大切に。（萬城評）

前衛書部　特選　相内　珠莉

巧みな筆捌きで紙面に動きとリズムを生み出した。美しい渇筆と瞬発する細線は現代的で爽快。

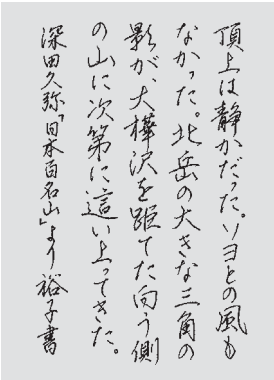
◎前衛書部総評　今月は初出品者が多かった。自由な発想の書の世界に親しんでほしい。（紅瑤評）



ペン字部　師範　徳永　裕子

伸びやかな生き生きとした筆線で字形も美しい。漢字とかなもよく調和した見事な行書作品。

◎ペン字部総評　穏やかで丁寧に書かれた佳作が多かった。文字の大小、行間等に留意し、丁寧に書くことが大切と思う。（白琉評）



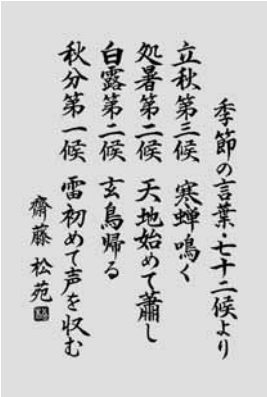
現代詩文書部　特選　熱海　桃翠

線の強弱・濃淡の変化により黒が空間に響く。そして、母への想いが見る者の心に響く。

◎現代詩文書部総評　作品構成多彩なれど、文字造形に難ありの作品が多く見られた。（邑峰評）

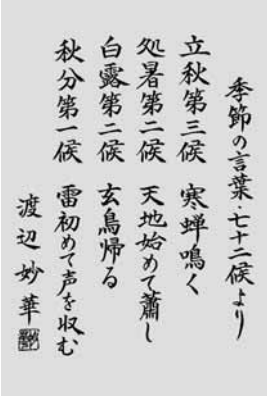
実用書優秀作品

選評　千葉蒼玄



特選　齋藤松苑

字形が整い章法も群を抜いている。落款の入れ方も的を射た佳作。



特選　渡辺妙華

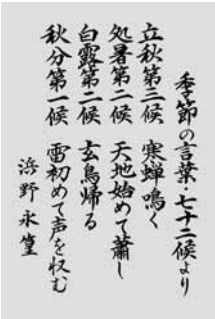
細い線で空間の「白」が美しい。伸々とした字形で堂々とした作品。

◎実用書部総評

丁寧に書かれた作品が多く、入筆終筆ともにしっかりとした線を出していた。文字の大小・字間・行間など紙面構成などに考慮するとよい。（蒼玄評）

今月の注目作

浜野永篁



特選

多賀　齋藤　松苑
大雲　渡辺　妙華
千葉　佐藤　桂香
竹美　横山　蘭舟
若葉　工藤　山房

秀作（50音順）

ここ　加藤　翠陽
芳石　鹿野　秀芳
こだ　北爪　鼓祥
千葉　竹浪　叙舟
一葦　中村　一琴
たか　浜野　永篁
琇韻　林　美奈子
もく　本郷　谷恵
椿翠　安嶋眞砂子
趙雲　吉田　恵弦

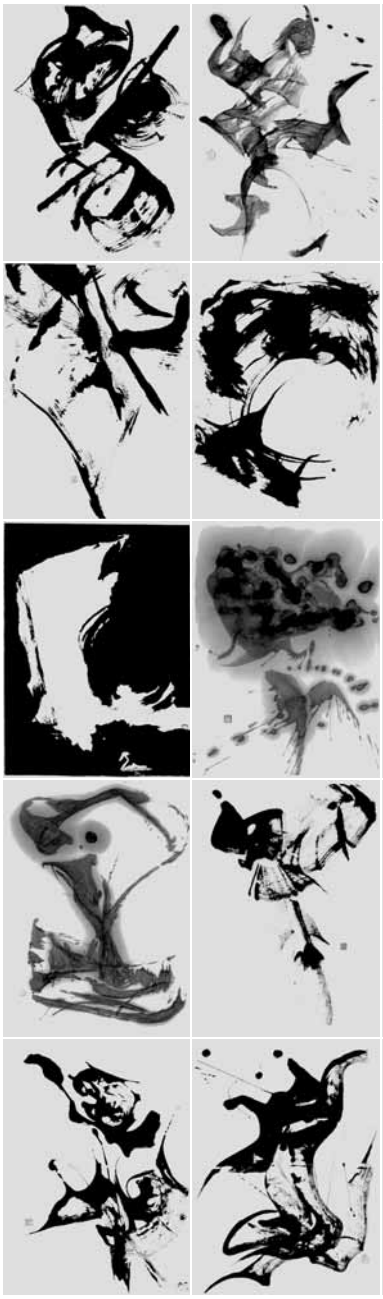
佳作（50音順）

紅瑤　相澤　敦子
澄春　新行内芳蘭
さつ　渡邊　順子
花祥　杉田　祥風
春城　東原　春城
中川　大島　竹鳳
若葉　本間富士子
渋川　大竹　紅華
芳石　中山　麗芳
大雲　鷺山　美梢
四枝　奥川　麗流
澄春　深澤　佳月
四枝　丹　美枝
紅月　林田　幹子
書游　佐藤　華園

入選（50音順）

春汀　上利　啓子
秀恵　阿部　雅悠
平成　有島　智水
福山　池崎　和美
竹原　池田　俊美
誠和　石崎　甘雨
若美　梅澤　勝江
八街　小川　白柳
大雲　奥村　美楓
樹原　葛　恵美
紅瑤　金井みどり
祥華　喜多志津子
日和　窪木　泉華
紅瑤　小板橋りか
遊山　紺野　遊山
秀水　坂井　初江
梓江　佐藤　祥扇
華祥　佐藤　武美
深大　清水　良子
書游　庄司　咏艸
常盤　水津　恵風
蒼陽　杉山　明恵
耕雲　千本松和子
芳蘭　高木　規芳
墨洋　高橋　栄杏
有秋　高橋千代子
恵石　田村　恵石
掃雪　津田　李花
江龍　鶴見　嘉美
隆雲　長井　隆仙
白珠　西山　葵龍
白露　野口久美子
常盤　正木　彩華
白露　松村　陽子
八街　三浦　英樹
一弦　道塚　紫音
玉州　宮城　涼萩
青蓮　山﨑　恵
華仙　山本　美楓
蓮紅　遊佐　紅雅
（選外329名氏名略）

前衛書部（特選）



千晶　貴美子　倫果　葵龍　みどり　淑子　麗芳　有希子　雅悠　紫千

選評　倉林紅瑤

リズミカルな筆致表情豊か
堂々たる筆勢意欲的な作
滲みと大胆な筆捌き印象的
空間処理が巧みで白生きる
気迫漲る作、強靭な線圧巻
エネルギッシュな筆致躍動
三角形構成スケール大きい
斬新な発想、気迫が伝わる
墨色と柔らかな滲みが美しい
歯切れのよいタッチ快作

現代詩文書部（特選）

萩月　雅邦　四夏　雄一　彩紅　悦子　花香　正　四峰　恵泉　菜圓　千恵子　睦月　葵龍　奎媛　潤　陽子　青花　藤象　美朱

選評　大平邑峰

意匠性の高い蝋纈染の作
大小の文字が見事に融合
墨量の変化の妙、筆線響く
力強い線質が冴える
文字群の凝縮、強さを感ず
味わい深い線質と章法
淡墨が心に沁みる美しさ
虚飾を排した枯淡な表現
柔和で優しい線と表現
渇筆が効果的に働いた作
深い呼吸で書いた線好感
句が心に突き刺さる表現
よく動き爽やかで明るい
乱れの無い多字数作品
空間を意識した作品構成
大小変化のリズム楽しい
調子の乱れ無く墨色も佳
左右に広がる線が響く
技量の確かさを感じる作
大胆な余白に挑んだ作品

今月の

特別研究部優秀作品（特選）

選評　小竹石雲　三浦鄭街　小島孝予　山口仙草

小品の部

現代詩文書　（翠苑）　若見苑柚　「窪田空穂の歌」

若見苑柚書　　35×136㎝

◆横書きで秋の情趣をうたいあげた作。温雅な潤筆と、冴えた渇筆が自然に溶けこみ一体化させた手腕はさすが。ただし、「おもむろ」が窮屈か？。（石雲評）

前衛書　（白珠）
石澤徳蓮
「凛々と」

石澤徳蓮書　　136×35㎝

◆細い長鋒を使用した、強く切れ味のある線とリズムが冴えた作品です。統一された書線で躍動感にあふれた世界を展開している。（仙草評）

臨書　（八街）
相楽天翔
「張遷碑」

相楽天翔臨　　135×35㎝

◆張遷碑を2行14字で表現。字間をゆったりと取った余裕のある構成。一字一字を淡々と書いているようにも見えるが、一画ごとに書き手の熱量が感じられる。（鄭街評）

かな　（伊呂）
齋藤杏邑
「金葉集より」

齋藤杏邑書　　136×35㎝

◆基本的な2行書でありながら、流麗なリズムと美しい渇筆によって立体的でダイナミックな作品となった。景色を感じる作品です。（孝予評）

〈小品の部〉

創作の部（43点）
漢字―7点
かな―3点
現代―20点
篆刻―1点
前衛―12点
臨書の部（37点）
漢字―32点
かな―5点

総出品点数 80点

〈特選候補者〉

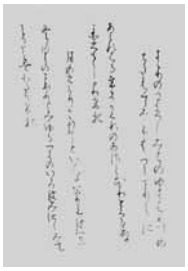
（創作の部）
「漢字」
大拙 畠中 成山
四枝 及川 豊流
「現代詩」
蓉花 澤 喜代美
青蓮 大町 菜圓
誠和 石崎 甘雨
四枝 伊藤 四夏
炎佳 伊藤 紫炎
「前衛」
大拙 阿部 俊吾
秀水 坂井 初江
（臨書の部）
「漢字」
澄春 笨 土屋 睦月
洞書 安藤 恵仙
八街 十河 春景 楊風
八街 三浦 英樹
八街 宮原 雅心
千葉 佐藤 桂香
千葉 竹浪 叙舟
大雲 鷺山 美稍
「かな」
清月 境野 和子
AI 藤村 昌子

大作の部

臨書（千葉）平野笛舟「針切」

47×178㎝

部分拡大



平野笛舟臨

◆針切のリズムのよさと行の繊細な響き合いが見事。後半は濃淡による景色が心地よい。日頃の努力の積み重ねに敬服します。（孝予評）

現代詩文書（翠柳）加藤紫翠「尊英詩「音楽」より」

180×60㎝

加藤紫翠書

◆ふくよかな線条が紙面に静かに語りかけ、広々とした宇宙が感じられる。無理をしない自然な動きに気品を漂わせる作。（石雲評）

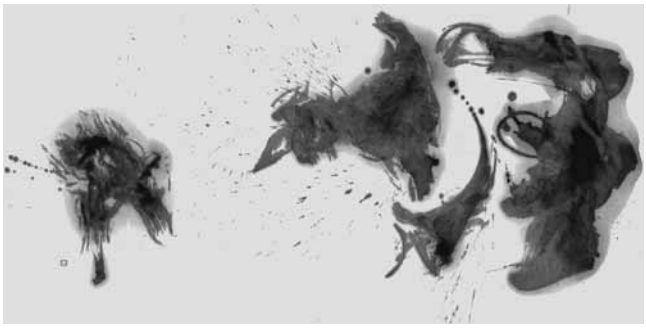
漢字（恵雅）板橋雅邦「蕭」

180×90㎝

板橋雅邦書

◆この作品を見た時に、前衛書かと感じた。濃墨を駆使し大胆に「蕭」の字を表現。墨量の変化、気合い、圧巻の一字書である。（鄭街評）

前衛書（光風）千葉光泉「スプラッシュ」



90×180㎝

千葉光泉書

◆淡墨で余白を生かした迫力ある作品となっている。重厚感と軽やかさが相まって心地よさを感じさせる作品。（仙草評）

〈大作の部〉

創作の部（33点）
漢字―4点
かな―2点
現代―7点
前衛―20点
臨書の部（10点）
漢字―7点
かな―3点

総出品点数 43点

〈特選候補者〉

（創作の部）
「漢字」もく 青木 藤漣
「かな」水茎 清水 蘭舟
「現代詩」四枝 大友 四峰
蒼風 笹木 蒼風
「前衛」玄象 中田千代子
舎人 平塚 汀泉
紅瑤 廣田 紫
蓮紅 大友 紅蓉
紅瑤 川田 弘子
月華 三塚 倫果
容洲 阿部 邑里
蓮紅 佐藤 紅茜
月華 中塩 朱華

（臨書の部）
「漢字」菁湖 北嶋 菁湖
紅瑤 相澤 敦子
玄宵 千葉 紅雪
大雲 舟寶 恵美
「かな」菊月 新井 恵子

漢字研究部
（張遷碑）

選評　名越蒼竹

今月のホープ作品

名取美紬

漢字研究部　特選　名取美紬

課題古典に対して真摯な態度で向き合い、字形はもちろん用筆・運筆が正確に学ばれていて、その臨書態度に好感が持てる、他の模範とすべき一作となった。「年」を少し上げて落款を入れると章法も完璧だったか。

◎漢字研究部総評

『書道芸術』の45ページに骨書きが示してあるにもかかわらず、字画が足りなかったり余分に加えたりした作品が散見されたことは残念です。本やインターネットでも用筆と運筆や他の書体との違いが確認できるので情報を得て取り組むことを勧めます。特に楷書体との違いを理解してから筆を持ってほしいと感じました。一部、碑面の摩耗等からくる拓本独特の味を出そうとしている作品もあり、その向かい方は一つの臨書態度として上級者には良いことだと思います。

華洋　麗流　美梢　葵龍　雅芳　聖祥

俊雄　雅邦　蘭舟　恵泉　清耀　菜圓

睦月　純奈　藤邑　珠里　志扇　邑莉

蒼信　和江　恭子　裕子　香柳　渓翠

かな研究部
（針切）

選評　酒寄光子

今月のホープ作品

鷺山美梢

かな研究部　特選　鷺山美梢

細く美しい行の流れ、力強い線質、墨の濃淡もよく考えられています。針切の特徴を深く理解された秀逸な臨書作品です。

◎かな研究部総評

全体的にはよく書かれていました。滲む紙を使われる場合、速書きになり、針切のような細く食い込みのある線は書き難くなるので紙選びも大切に。

朗　清耀　谷恵

佳恵　美子　篁葵

祐香　和子　百合子

幸子　信代　琴舟

かな研究部成績表

特選

大雲　◎鷺山美梢
上泉　早部朗
大雲　礒貝清耀
もく　本郷谷恵
桜草　苗代佳恵
紅風　田畑寿美子
たか　岩﨑篁葵
藍　石井祐香
清月　境野和子
紅瑤　高木百合子
わか　伊藤幸子
恵泉　渡邊信代
誠和　鵜澤琴舟
幕張　高橋賢雲
立精　千田白香
紅瑤　藍澤白珧
玉川　御園生芳瑤
千葉　猪又理扇
秀畝　大野千鶴子
こ こ　加藤翠陽
たか　浜野永篁
幕張　松島翠舟
華仙　菊地恵水
大雲　片山恵風
華仙　山本美楓

秀作（50音順）

文筆　青木知子
菊月　新井恵子
江龍　石井惠子
正華　石川知津子
一心　石森博子
上泉　井上清泉
たか　梅津佳代子
書游　小野寺美代
上泉　粕谷和子
正華　金田真優
こだ　北爪鼓祥
うる　木村順子
竜泉　呉豊美
静翠　小暮真紀
奥田　小林溪姫
蒼陽　込山美艸
伊呂　齋藤杏邑
蕙書　坂本里美
素朴　坂本素朴
竹美　櫻田智舟
玉川　佐藤綾奈
たか　猿渡篁右
秀畝　椎名光子
書泉　七五三木和美
紅瑤　須田香舟
麗澤　須藤萩雨
竜泉　高橋雅泉
清月　高山れい子
やま　田玉哲子
恵石　田村恵石
文月　仲川信夫
上泉　萩原洋子
高崎　原裕子
椿翠　平山かつ子
澄春　深澤佳月
蓮紅　本田美雪
梓江　松永珠鈴
石習　松丸愛石
書泉　松本恵泉
一弦　村上美智恵

佳作（50音順）

もく　青木藤漣
光彩　浅川みな江
垤和　安藤美悠
福山　池崎和美
和平　井上英二
わか　印東正恵
玉川　上横手真美
渡辺　大沢淳子
玉川　大谷雪蓮
樹原　葛恵美
菁湖　川﨑梨央奈
〃　北嶋菁湖
竹原　久根﨑美登里
蒼陽　熊井宏子
秀畝　小池直子
墨花　小口智子
高真　木暮美紀
一心　小坂素子
大阪　小林萩江
梓江　権代雪華
聖堂　佐久間洋子
光彩　櫻田龍貞
書游　佐藤華園
ＡＩ　清水由紀子
水茎　清水蘭舟
〃　高岡秀汀
澄春　高橋幸苑
高真　武井一江
玉松　田中耶衣
竹扇　寺前華扇
福山　徳永裕子
京橋　豊嶋勝
天璋　中里星子
誉田　中野恵美子
上泉　中村シゲ子
縷縷　長島紅藍
高崎　二通麗子
青蓮　沼田奎心
一弦　早坂聖朋
琇韻　林美奈子
長月　原澤典子
〃　平山さだ子
玉川　福田椿彩
紅風　船津美代子
高真　松尾有希子
八街　村上佳月
もく　森田藤谷
琇韻　山縣令子
こだ　山根美嶺
〃　吉野桜佳

入選（50音順）

松村　青木玉枝
一心　秋葉ミエ
楓会　浅井和江
仙台　熱海桃翠
もく　新井藤雪
游水　荒川裕泉
あか　石井玲子
白琉　石関春月
日新　石橋嘉子
八街　石渡翠径
やま　伊東京子
幸扇　井上洋硯
菁湖　井上鈴菜
立精　猪股白慧
高真　岩上郁子
澄春　植田紅雨
高真　梅山久子
髙井　榎田和子
椿翠　大島昌子
正華　大湊はるな
明漢　小澤和子
森地　小高杏鶴
青蓮　小野朱星
雲溪　香川翠溪
澄春　加瀬夏峰
森地　片桐桃代
華祥　加藤雅芳
正華　金谷実咲輝
菁湖　川﨑帆乃佳
祥紫　北村登志子
秀畝　木下千壽子
幽香　木村優琴
附中　國峰琴翠
青蓮　熊谷竹鈴
高崎　小板橋理恵
こだ　小松﨑千恵子
高崎　小峰美加子
遊山　紺野遊山
蒼原　齋田舞夢
高崎　酒井知子
春汀　佐々木淳子
琇韻　佐藤由美子
八雲　七條裕美
八生　篠田恵美子
正華　柴田洋子
堺　嶋田記枝
明漢　島外美子
春汀　下田加代子
菁湖　下村明日香
竹原　代田葉子
澄春　新行内瑞華
わか　菅野淑江
祥紫　杉田睦子
鈴木睦心
白露　春原慶子
玉川　関根美代子
華祥　高木昭華
有秋　高橋千代子
玉川　高原貞子
世田　瀧口すみ子
墨縁　武田宗楓
有秋　武山花源
千葉　玉沢幸子
玄穹　千葉陽子
泉会　辻洋子
高真　鶴淵亜希
たか　樋泉雪篁
清月　德江淳子
春汀　渡子紀子
もく　戸部藤風
麗澤　富田瑶翠
松村　中澤フクェ
大阪　中西恵子
書泉　永井伯泉
姫路　西川久美子
一心　錦織あさ子
白露　野口久美子
幸扇　野村幸城
掃雪　橋本敦子
菁湖　橋本潤子
濱嶋久幸
正華　林喜美子
菁湖　林田直樹
高真　廣瀬幸枝
澄春　深堀清洗
もく　福富惠子
掃雪　福冨牧子
大雲　藤井花香
生大　藤本登喜恵
祥紫　船木悦子
上泉　本多和枝
澄春　増田華秀
無門　桝見香風
白露　松村陽子
八街　三浦小樹
文月　三浦真翠
華祥　三澤美智子
たか　本柳小篁
あか　本吉明香
清月　森奈都恵
高崎　矢口登江
椿翠　安嶋眞砂子
玉川　谷知裕美子
祥紫　山田京
幸扇　山本梅香
東伯　山本真紀
竹美　横山蘭舟
昌苑　吉田翠綾
明漢　吉田千鶴子
梓江　吉松幸子
大阪　六波羅箏玉

選外　92名氏名略

審査会員の部　結果発表（出品数 漢字23点・かな12点）

選評　種谷萬城・下谷洋子

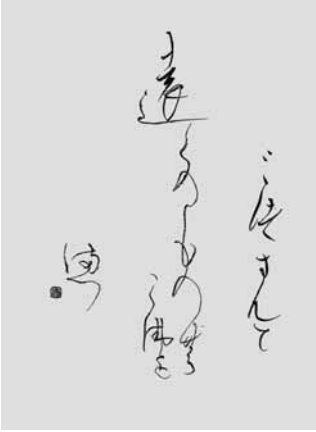
〈次点・50音順〉

新行内　芳蘭

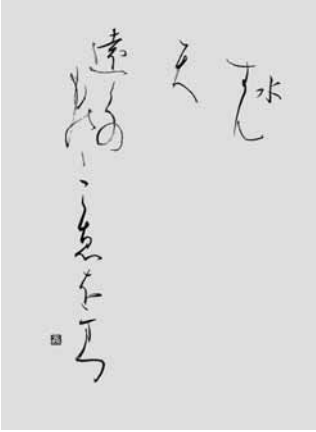
天野　白扇

茂木　絢水

大内　熒軒



清水　蘭舟



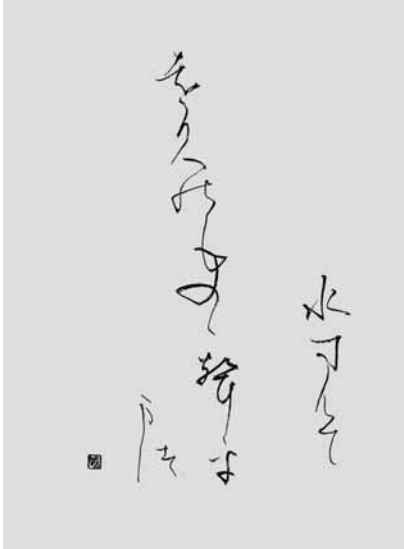
佐藤　一義

漢字秀逸作

石崎甘雨

軽快な筆致で、細太、軽重の変化が巧妙。流動美を求め、多彩な筆法を加味した、表情豊かな線に魅せられる。幅広い学書の成果を見事に発揮している。（萬城評）

かな秀逸作



佐々木浩子

まず、線の切れに見入った。流れが少々ゴツゴツしているが、かえってそれが魅力にもなっている。ただ、遠を草書にするとかなと混同するので行書体の方がよい。（洋子評）

書展

市川将義書展『縁に在る』

種谷悠輝

会期＝令和7年8月23日(土)～25日(月)
会場＝大阪産業創造館

毎日書道展会員、書道芸術院展審査会員、玄遠社理事、春洋会常任理事として活躍されている市川将義先生の初個展が8月23日(土)～25日(月)まで大阪産業創造館で開催されました。

市川先生は故・恩地春洋先生、小林琴水先生に師事し、市川書道教室主宰として子どもから大人まで指導されています。

会場には、金紙に濃墨で書かれた「仁義」(240×360)をはじめ、黒紙に白色液で書かれた「破壊」(175×355)、淡墨で表現された一字書「守」「破」「離」(180×180)など勢いのある運筆で迫力ある大作に加え、多彩な表現で余白を活かした漢字作品や現代文の小品まで、幅広くバラエティに富んだ作品が並びました。

『縁に在る』をテーマに、今までの経験や出逢い、大切にしている言葉などを中心に創られた33点の作品は、どれも見応えがあり、思いのこもった力作で強い刺激を受けました。

市川先生とは、2019年に群馬・伊香保で行われた書道芸術院単位認定講習会で、受講生として一緒に講義を受けたことがきっかけでご縁を頂き、今に至っております。

この個展を機に、今後益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

会場風景

「仁義」

「破壊」

軸装作品

第60回記念竹扇会書展「還」を拝見して

稲垣小燕

会期＝令和7年9月12日(金)～14日(日)
会場＝大阪産業創造館3階マーケットプラザ

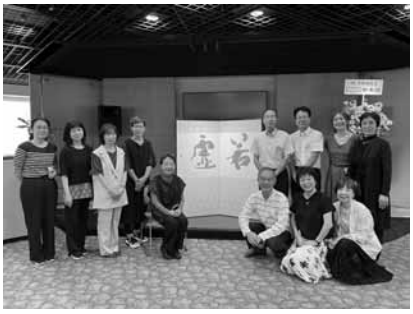
エレベーターを降りると軸装された篆刻作品が整然と並んでいて、それに誘われるように会場に入っていくと、故・小伏竹村先生の屏風仕立てにされた「若虚」がまず目に入りました。作品を拝見していると、先生と交わした会話の中で「線」を大切にしていらっしゃるお話が印象的だったことを彷彿とさせられました。「若虚」どこまでも柔らかく伸びやかな線を美しい墨色で書かれ、浮き上がるような空間構成に改めて感銘を受けました。

会長小伏小扇先生の「初心」は、このたびの60回展、つまり人にいうところの、会が還暦を迎えたことを意味し、新たな一歩を踏み出そうとされているお気持ちが伝わってくるような躍動感のある作品で、これからの竹扇会の姿勢を示していらっしゃるように感じました。

また、幹部の皆様の作品からは、先生の思いに応えるかのような動きと力強さが伝わってきました。

会員の方々の作品は、図録冒頭に書かれていましたように「心をひとつに、たゆまぬ努力」が窺える作品群で、とても頼もしく感じられ、竹扇会のさらなるご発展を祈念しつつ会場を後に致しました。

会場風景


「若虚」を前に

全日本書道連盟主催

書道講演会 開催のご案内

日　時　令和７年11月10日（月）午後２時～３時半

会　場　国立新美術館　３階講堂（東京都港区六本木）
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」６番出口に直結
当日は同美術館で、第11回日展開催中です

演　題　「夢のあとさき ―明末清初における伝統の継承と再編―」

講　師　台東区書道博物館 館長
全日本書道連盟 外部監事　鍋 島 稲 子（なべしま とうこ）氏

定　員　250名（聴講無料）

どなたでも聴講できますので、聴講ご希望の方がおられましたら、電話／FAX／メールで聴講希望人数をお知らせください。
下欄にご記入の上、FAX送信ください。

申込先　連盟事務局　電　話　03-5294-1371（月～金曜 10：00～18：00）
ＦＡＸ　03-5294-1372（24時間受信）
E-mail　zsr@shoren.jp

（団体または代表者名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（聴講者数）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿名

（連絡先電話番号）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

お願い事項

※「書道芸術」競書出品するためには、バーコード出品券が必要です。

○新規登録（無料）

○再発行申請（有料：500円分切手）紛失・破損・支部・氏号変更

○登録内容変更（無料）住所・電話番号変更・指導者名変更

各種申請用紙は、事務所までご請求ください。

指定形式以外の申し込みは、お受けできません。また、バーコード出品券に訂正されても変更できませんので、**必ず手続き**をして下さい。

※書道芸術院
創立記念日

講演会のご案内

記

日　時　令和7年11月23日(日)・(祝)
午後1時半より講演（受付午後1時～）

講　師　田村麗恵（たむらよりえ）先生
神奈川県生まれ。1999～2004(財)センチュリー文化財団 センチュリーミュージアム学芸員 2011～2021(公財)東京都歴史文化財団 東京都美術館学芸員 2025～現在 東京都文化事業課 文化戦略推進担当
（専門）日本美術史、日本書道史

演題　（仮題）「現代の書の鑑賞をめぐって」

会　場　上野精養軒 地階「銀杏の間」
〒110-8715 東京都台東区上野公園4番58号
TEL：03-3821-2181

主　催　（公財）書道芸術院

定　員　先着80名（会場の関係で先着80名で締め切ります。）

申込方法　下記申込用紙に氏名を記入の上、FAXまたは郵送で書道芸術院事務局にお申し込みください。

申込締切　令和7年11月14日(金) 厳守（聴講無料）

FAX　03-3862-1957

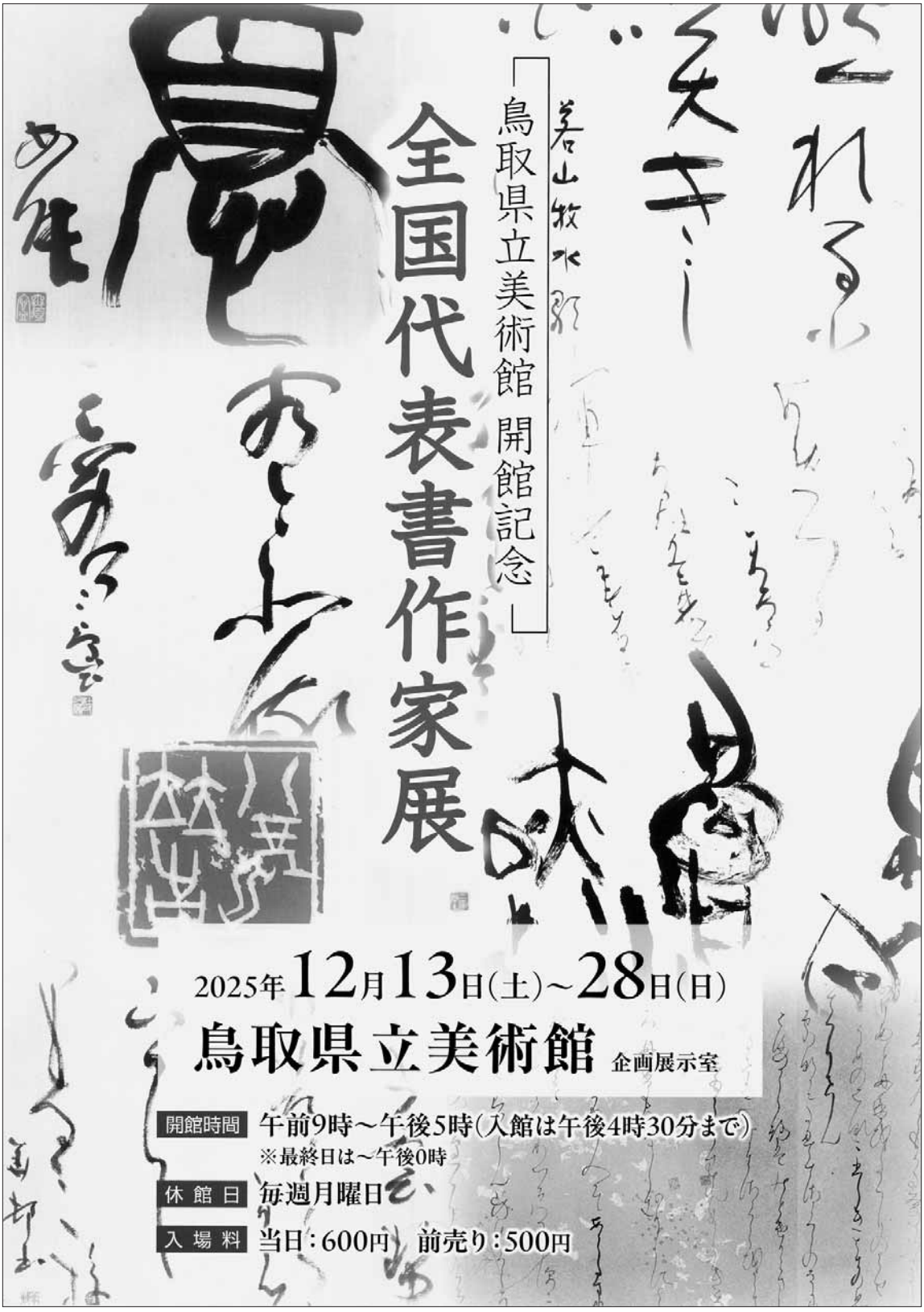
参加申込書

※例年郵送していました参加申込書は郵送いたしませんので、こちらでお申し込みください。

氏名を記入の上、FAXまたは郵送で書道芸術院事務局にお申し込みください。
審査会員・審査会員候補・無鑑査・一般の方、どなたの参加も聴講無料です。

11月14日（金）　締切厳守

氏　　名	氏　　名


「鳥取県立美術館 開館記念」
全国代表書作家展
2025年12月13日(土)～28日(日)
鳥取県立美術館 企画展示室
開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
※最終日は～午後0時
休館日 毎週月曜日
入場料 当日：600円 前売り：500円

春洋会書展

●会期　令和７年11月８日(土)
～10日(月)
８日　　午後１時～６時
９・10日　午前10～午後５時

●会場　大阪産業創造館３階
マーケットプラザ
〒541－0053
大阪府大阪市中央区本町１－４－５
TEL 06－6264－9800

●主催　春洋会（会長）小林琴水

●後援　(公財)書道芸術院
毎日新聞社

第６回
もくせい書道会展

〈トリエンナーレ〉
書を楽しく学ぶ会員の３年毎に開催する社中展

と　き　令和７年11月７日(金)～９日(日)
10時～18時（最終日９日(日)は17時まで）
ところ　船橋市民ギャラリー３階（船橋スクエア21）
〒273-0005
船橋市本町２丁目１番１号　TEL047-420-2111

※ワークショップ…採拓コーナー（無料）　７日(金)～８日(土)
子供から大人まで挑戦してみませんか？　10:00～17:00
（山梨県市川大門碑林公園の方より指導あり）

≪特別出品≫
遺作　種谷扇舟先生
白扇書道会理事長　種谷萬城先生

＜出品者＞　主宰　半田藤扇（小さな個展…）

青木　藤進	新井　藤雪	池田輝久子	岡部　藤瓊
尾関　藤翠	角　真由美	金親恵里子	小林　舟職
小林　藤禎	瀬戸口紫春	高津　谷麗	高村　藤舜
千葉由美子	地下みどり	土橋　律山	冨樫　千尋
戸部　藤風	中島　藤邑	永福　藤翔	西川　藤象
半田　杏朱	本郷　谷恵	牟田口香瀬	森田　藤谷
渡邊　谷粋			

（学生部…書と童謡の書とのコラボ）

主催：もくせい書道会
後援：(公財) 書道芸術院　日本詩文書作家協会
(一財) 毎日書道会　毎日新聞社
白扇書道会　習志野市芸術文化協会

SHO JAPAN
私たちは「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録を応援しています。

第79回 書道芸術院展

― 併催　第77回 全国学生書道展 ―

2026年2月5(木)日－11(水・祝)日　9：30～17：30
（入場は30分前まで）＊11日(水・祝)は14時閉室

上野公園 東京都美術館
（ロビー階 第３・４展示室　１階 第３・４展示室　２階 第２・３・４展示室）

SHO JAPAN
私たちは「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録を応援しています。

一般公募・無鑑査 作品・書類受付	2025 11月20日
審・客候 書類受付	2026 1月19日
作品搬入	2026 1月27日

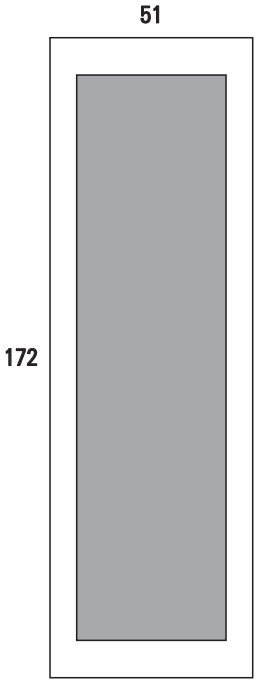
主催　公益財団法人 書道芸術院
後援　文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟
毎日新聞社・一般財団法人 毎日書道会

第79回書道芸術院展の表装について（無鑑査、一般公募）

第79回展から無鑑査と一般公募において、縦作品のみ額装と軸装の選択を可能とし、仕上がり寸法は同じといたします。ご出品の際には、サイズ等ご確認をお願いいたします。

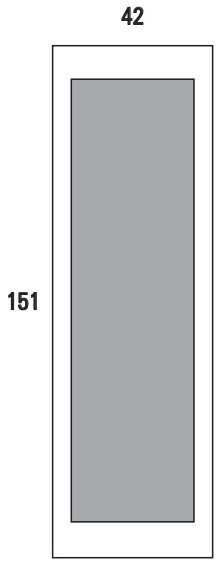
●作品サイズ （額装と軸装ともに同じ仕上がり寸法）

＝ 無鑑査（M）＝

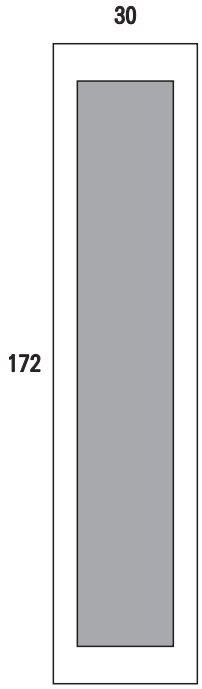


※まくり（本紙）は
縦167×横46以内

＝ 一般公募（O、P）＝



※まくり（本紙）は
縦136×横35以内



※まくり（本紙）は
縦167×横25以内

◎表具代については、必ず事前に、各団体が取り扱う表具店にご確認願います。

〈説明〉
前回展までは全て額装でしたが、展覧会終了後、額からはがされて戻ってきた作品の保管や再展示が難しい、との声があり、それを受けての措置となります。また、表具店によっては、軸装のほうが安価になる場合も多く、出品に係る経済的負担を軽減するためのひとつの方策として導入しました。

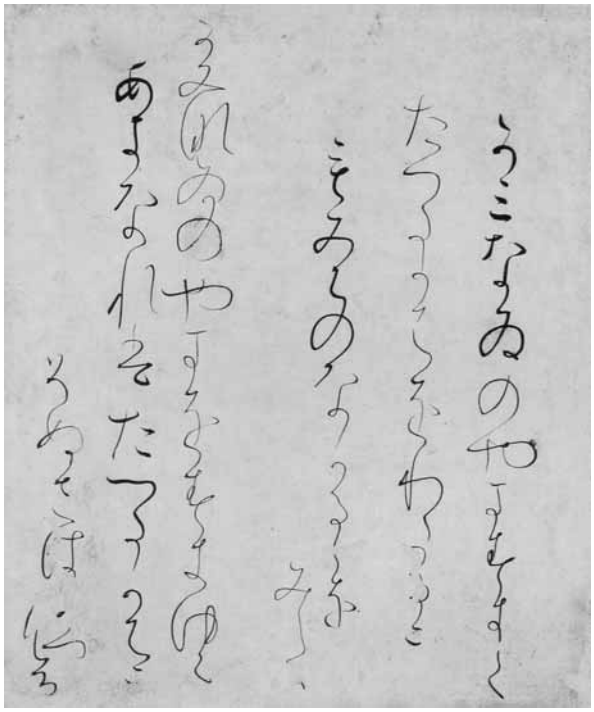
〈注意〉
額装については、前回展までと変わるところはありません。

予告　2025・11月号（775）の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

（12月10日締切）

古筆鑑賞 ㉖⓪

升色紙（伝 藤原行成筆）②



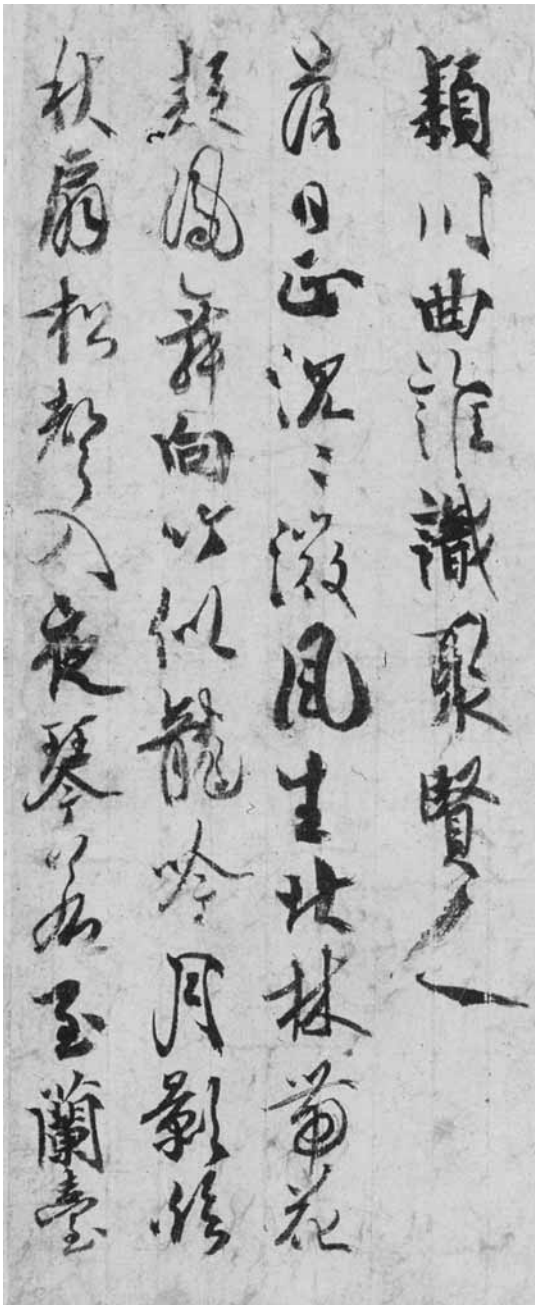
（掲載図版・70％に縮小）

〈よみ〉

かみ（可三）なゐのやま（万春）すぎ（支旦）
たつた（多可）がは（者）をわた（多）る（二）に
もみぢ（毛）のなが（可）るゝを
みて（弖）
かみな（可那）ゐのやま（万）をすぎ（春支）ゆく（久）
あき（支）なれば（盤）たつた（多可）がは（者）に（二）
ぞぬ（曽）さは（可）かづ（介）ける

古典鑑賞 ㊽⑥

李嶠詩断簡（伝 嵯峨天皇筆）②



穎川曲誰識聚賢人。／落日正沈々微風生北林。帯花／疑鳳舞向竹似龍吟。月影臨／秋扇松声入夜琴若至蘭台

（掲載図版・70％に縮小）

おかやまアーツフェスティバル2025参加 ARTS

第37回

石心会書道展

（テーマ）平和 ― 昭和100年の今 ―

日時 令和７年11月７日(金)～９日(日)
（7日～8日は10:00～17:00、9日は10:00～15:30）
■ワークショップ（9日(日) 10:00～12:00）
～ 筆を執って楽しみませんか ～

場所 岡山市灘崎文化センター
（岡山市南区片岡186） TEL.086-362-1600）

共催 岡山市、（公財）岡山文化芸術創造
おかやまアーツフェスティバル実行委員会
（フレンドシップ事業）

後援 岡山市教育委員会
山陽新聞社　毎日新聞岡山支局　(公財)書道芸術院
岡山県近代詩文書道連盟　書道研究書芸院

ご清鑑 ご高批賜わりますようご案内申し上げます
ご芳志は謹んでご辞退申し上げます

SHO JAPAN

私たちは「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録を応援しています。

第20回 花心会書道展

●と　き　：令和7年11月1日(土)～3日(月)
9:00～17:00（3日は16:00まで）
2日（日）・3日（月）ワークショップ有り

●ところ　：倉敷市民会館 2階大会議室・1階展示室
倉敷市本町17-1　TEL.086-425-1515

●駐車場　：花心会専用駐車場4台有り
（花心会の受付にお声掛け下さい）

書道展はこの度20回目を迎えることができました
これも毎回ご来場を楽しみにして下さっている
皆様のお陰だと思っております
拙い作品ばかりではございますが
何卒ご高覧下さいますようご案内申し上げます
お気遣いなくお越し下さいませ

●後援／倉敷市、倉敷市文化連盟、山陽新聞社、(公財)書道芸術院
●主催／花心会（主宰／今村　菁華）
〒710-0031 倉敷市有城193　TEL.086-429-1550

第19回

若葉会書道展

ご高覧賜わりますようご案内申し上げます

会 期　令和７年11月７日(金)～９日(日)
10:00～17:00（最終日は15:00まで）

会 場　八戸市美術館　ギャラリー１・２
〒031-0031 八戸市大字番町10-4 TEL 0178 (45) 8338

後　援　八戸市・八戸市教育委員会・八戸市文化協会・（公財）書道芸術院
㈱デーリー東北新聞社・㈱東奥日報社・㈱八戸テレビ放送

11月８日(土) 15:00～16:00 出品者によるギャラリートークを開催します

代表　中村雅臣

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和七年九月二十五日印刷
令和七年十月一日発行
（毎月一回一日発行）
書道芸術　第七七四号

競書出品規定

※規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※半紙は縦使用に限る。

※落款（印のみも可）を入れる。

●出品資格　高校生以上

●月例競書作品出品の心得

1、締切日必着厳守
2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない
3、月別出品券のコピーは不可
4、(一)初めて出品のときは「10級」と書く
(二)「課題違反」・「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

※▲印段級誤記入
※△印作品審査後着

＊段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3…段位は漢数字　初、二、三…で書いてください。
＊級位の方は、出品する月の本誌（最新号）で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

●規定部（自分の段・級で出品）

部門	段級位	用紙	書体・内容
漢字	初段以上	半紙	創作（楷書）（書体自由）
漢字	秀級以下	半紙	創作（楷書）
かな	初段以上	半紙	創作
かな	秀級以下	半紙たて½	臨書
漢字条幅	初段以上	半切	創作（書体自由）
漢字条幅	秀級以下	半切	創作（書体自由）
かな条幅	10師～級範	半切	創作
ペン字	10師～級範	はがきサイズ	書体自由

・かな、かな条幅部門は料紙使用可。

●自由部（段、級によらないもの）

部門	用紙	内容
前衛書	半紙	創作
現代詩文書	半紙	創作
実用書	左記	書体自由

＜実用書部門・出品規定＞

○用紙　半紙横½（24.5×16.5㎝）、B5コピー用紙（26×18.1㎝）も可。
○課題　掲載語句を書く。
○小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部

・大作または小品のどちらかに1点出品する。
・詳細は出品票の掲載ページを参照のこと。

●研究部（掲載課題の臨書）

部門	用紙	内容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌1首以上を書く、全文も可

・掲載部分以外の箇所は不可。
・かな研究部門は料紙使用可。料紙貼りつけも可。

☆審査会員の部について

・「漢字部門初段以上」と「かな部門初段以上」に審査会員のみが出品できる部を設ける。
・バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。
・通常の競書との重複出品は不可。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
〒101-0031
東京都千代田区
東神田1―16―7
東神田プラザビル3階
公益財団法人 書道芸術院
電話（03）3862―1954
FAX（03）3862―1957

ご連絡等は月曜日～金曜日 10時～16時 の間にお願いいたします。（土・日・祝日は休み）

送料

1か月の購読部数が1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は送料免除

令和七年九月二十五日印刷
令和七年十月一日発行
定価　1部　七五〇円
編集兼発行人　下谷洋子
データ処理　株式会社リンクス
印刷　小沢写真印刷株式会社
発行所　公益財団法人 書道芸術院
〒101-0031
東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階
電話（03）3862-1954
FAX（03）3862-1957
振替　00150-4-135058
ホームページアドレス　http://www.lincs.co.jp/shogei/